



みんなのまちづくりフォーラム2022

“新たな杜の都へのチャレンジ”

仙台を、みんなの力でつくっていく。

報告書

日時 / 令和4年11月6日（日）13:30～16:30

会場 / 仙台国際センター展示棟 会議室1・2

主催 / 仙台市まちづくり政策局政策企画部政策企画課



## 目次

---

1.	開催趣旨・実施概要	.....	p. 1
2.	フォーラムプログラム	.....	p. 2
3.	仙台市の取り組み紹介	.....	p. 3
4.	ファシリテータープロフィール	.....	p. 8
5.	テーマA グループワーク	.....	p. 9
6.	テーマB グループワーク	.....	p.11
7.	テーマC グループワーク	.....	p.13
8.	テーマD グループワーク	.....	p.15
9.	アンケート集計	.....	p.17
10.	参加者の感想	.....	p.18

## 開催趣旨

本市では、「仙台市基本計画2021－2030」において、仙台の特性を最大限に生かしながら、市民の皆さまや仙台に関わる方々とともに進める8つのチャレンジプロジェクトを掲げ、“The Greenest City” SENDAI の実現に向けたさまざまな取り組みをスタートさせています。

その一環として、参加者が本市の職員と一緒にまちづくりについて考える「みんなのまちづくりフォーラム2022」を開催し、オンライン参加を含め31名の方にご参加いただきました。

本フォーラムは、本市基本計画の推進及び実施計画の進行管理を目的とするものであると同時に、市民協働で本市事業の磨き上げを図るものであり、4つの事業をテーマに、参加者、本市事業担当課、そして実際にまちづくりに取り組まれているファシリテーターの方々グループワークを行い、各事業をより良いものとするためのアイデアや一人ひとりができることについて考えを深めました。

## 実施概要

■ 名 称	『みんなのまちづくりフォーラム2022 ～新たな杜の都へのチャレンジ～』
■ 日 程	2022年11月6日（日） 13:30 ～ 16:00
■ 会 場	仙台国際センター展示棟 会議室1・2
■ 実施内容	<p>①前半【仙台市の取り組み・ファシリテーターの紹介】 仙台市のまちづくりの方向性や市民意識調査の結果などについて、仙台市総合計画審議会の委員を務められた、特定非営利活動法人都市デザインワークス代表理事の榊原進さんと、仙台市政策企画課の佐藤裕大課長がクロストークで説明しました。 また、榊原さんよりファシリテーターの方々をご紹介しました。</p> <p>②後半【グループワーク・総括】 テーマごとグループに分かれ、ファシリテーターと市の職員とともに、テーマに関するアイデアや一人ひとりができることについて考えを深め、内容を共有しました。 グループワーク終了後は、他のグループともワークの内容を共有したほか、各ファシリテーターより総括をいただきました。</p>
■ 参加者数	31名（オンライン参加者2名含む）
■ 主 催	仙台市まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課

# フォーラムプログラム

時間	プログラム	登壇者等
13:30	■開会・仙台市の取り組み紹介	○特定非営利活動法人 都市デザインワークス 代表理事 榊原 進 さん  ○まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課長 佐藤 裕大
14:00	■ファシリテーター紹介	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 理事 伊藤 愛発 さん
		○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 代表理事 手島 慧 さん
		○防災士／西公園プレーパークの会 理事 佐藤 美嶺 さん
休 憩		
<b>グループワーク</b>		
14:20	テーマA 「デジタルを地域の課題に活用する」	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 理事 伊藤 愛発 さん  ○青葉区 宮城総合支所 地域活性化推進室 (オブザーバー：まちづくり政策局デジタル戦略推進部まちのデジタル推進課)
	テーマB 「若者が活躍できる環境づくり」	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 代表理事 手島 慧 さん  ○市民局 市民活躍推進部 市民協働推進課
	テーマC 「子育て情報を適切に届ける」	○防災士／西公園プレーパークの会 理事 佐藤 美嶺 さん  ○子供未来局子供育成部 総務課 子育て応援プロジェクト推進担当
	テーマD 「ビジネスに挑戦しやすい環境づくり」	○特定非営利活動法人 都市デザインワークス 代表理事 榊原 進 さん  ○経済局 産業政策部 産業振興課
休 憩		
15:30	■全体共有・ファシリテーター総括	① 伊藤 愛発 さん ② 手島 慧 さん ③ 佐藤 美嶺 さん ④ 榊原 進 さん
15:55	■主催者挨拶	○まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課長 佐藤 裕大
16:00	■閉会	

仙台市基本計画2021-2030について

榊原

普段、僕たち市民が暮らす中で、基本計画とか実施計画とか、毎日意識するものじゃないと思うんです。どういものなのか、なぜつくるのか、教えていただけますか。



みんなのまちづくりフォーラム 2022 ~ "The Greenest City" SENDAI ~

仙台市総合計画

- 基本計画 + 実施計画 = 総合計画
- 基本計画・・・仙台市のまちづくりの指針となるもの（現計画は2030年度まで）
- 実施計画・・・概ね3年間に取り組む目標と施策・事業などを示すもの（現計画は2023年度まで）

- ・ 2050年頃を見据えた仙台市が目指すべき姿
- ・ その実現に向けたまちづくりの理念と施策の方向性、8つのチャレンジプロジェクト（後述）
- ・ 基本計画実現に向けた施策と事業、目標
- ・ 現計画には、チャレンジプロジェクトに沿って43の施策と156の事業が記載（1つの施策は概ね3～4事業、再掲事業除く）



佐藤

基本計画は、仙台市のあらゆる計画の最上位にあるもので、まちづくりを進めるにあたり、どのような方向性で取り組んでいくのかを市民の皆さまにお示しする羅針盤のようなものです。

現在の基本計画は、最初に、2050年頃にどんなまちになりたいかを明らかにして、そこに向けて2030年度までに何をすべきかを示すという考え方に立っています。

実施計画ですが、これは、基本計画の実現を図るための施策や事業などを示す、仙台市のアクションをまとめたものです。内容はおおむね3年ごとに改訂されます。

## 市の取り組み紹介

### 榊原

基本計画にはまちづくりの理念や方向性が書かれている、ということでしたが、チャレンジプロジェクトのことも含め、どんな内容なのか教えていただけますか。

### 佐藤

まちづくりの理念は、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～ “The Greenest City” SENDAI～」です。

仙台が魅力的なまちであり続けるために、「都市個性や強み、皆さまの知恵や技術などを掛け合わせ、長所を伸ばしていく」、「一人ひとりが仙台を誇りに思い、杜の都を新たなステージに押し上げていく」、まちづくりの理念にはこのような想いを込めており、さらには、グリーンという言葉につながる4つの「目指す都市の姿」を掲げて、それぞれの最上級を目指し、挑戦を続ける姿勢を示しています。

この目指す都市の姿こそが2050年頃に実現したいまちの姿であり、その実現に向け、仙台に関わる全ての皆さまとともに挑戦する舞台がチャレンジプロジェクトです。



# 市の取り組み紹介

## 佐藤

チャレンジプロジェクトは全部で8つありますが、本日はそのうち3つをピックアップしてご説明します。

### 「地域協働プロジェクト」

私たちの暮らす地域はそれぞれ、成り立ちや魅力、課題が異なりますので、各地域の状況に応じた地域のあり方を考えていく必要があります。

地域課題の解決に向け、町内会や市民活動団体、民間企業などと市が一緒になってその地域ならではの魅力を高め、多くの挑戦が生まれる環境をつくっていかう、というプロジェクトです。

みんなのまちづくりフォーラム 2022

～“The Greenest City” SENDAI～

### 仙台市基本計画 ～チャレンジプロジェクト～

#### ①杜と水の都プロジェクト

##### 【目標】

「杜の都」の風土と文化に巡りあえる都市空間をつくる

定禅寺通活性化、海浜エリア活性化など



#### ②防災環境都市プロジェクト

##### 【目標】

持続可能でしなやかな都市環境をつくる

防災意識の啓発強化や震災復興メモリアル、脱炭素都市づくり推進など



#### ③心の伴走プロジェクト

##### 【目標】

多様性を尊重し、あらゆる人が安心して暮らせる地域をつくる

障害者理解促進や命を大切にす教育推進など



#### ④地域協働プロジェクト

##### 【目標】

多様性を力に変える地域をつくる

地域づくりパートナーサポートや各区・地域の特色を活かした各種の取り組みなど



みんなのまちづくりフォーラム 2022

～“The Greenest City” SENDAI～

### 仙台市基本計画 ～チャレンジプロジェクト～

#### ⑤笑顔咲く子どもプロジェクト

##### 【目標】

子どもたちの未来が広がる環境をつくる

仙台自分づくり教育推進や子ども・子育てに関するオンライン等相談など



#### ⑥ライフデザインプロジェクト

##### 【目標】

自分らしい生き方が実現できる環境をつくる

文化芸術によるまちの魅力づくりや高齢者社会参加促進、被災者健康支援など



### 「笑顔咲く子どもプロジェクト」

仙台の未来のためには、安心して子どもを産み育てられる環境づくりが不可欠です。また、子どもたちがさまざまなことにチャレンジできる場をつくり、子どもの個性を尊重して、地域で守る環境づくりも大切です。

大人と子どもが多くの関わりを持ちながら、まちをより良い方向へと発展させていくためのプロジェクトです。

#### ⑦TOHOKU未来プロジェクト

##### 【目標】

世界に発信できる東北発のイノベーションを生み出す

次世代放射光施設関連産業振興や東北観光推進など



#### ⑧都心創生プロジェクト

##### 【目標】

人が集い、新しいチャレンジが生まれる都心をつくる

まちなか建替促進やウォークアップ推進、中心部商店街活性化促進など



### 「TOHOKU未来プロジェクト」

近年、働き方の変化やリスクの分散の観点から、首都圏から地方に目を向ける企業が増えています。

住みやすさなど、仙台・東北の良さを活かした社会経済の活性化とともに、デジタル化やインバウンドなどの国際的な視点と、自然とともに暮らす地方の視点、両方を意識したセールスを展開し、人の流れを仙台・東北に呼び込むプロジェクトです。

# 市の取り組み紹介

## 榊原

基本計画に書かれている概要を教えてくださいました。ただ、計画を計画のままで終わらせることなく、実現しないと意味がないのでは？と思います。どのように実現に向けて取り組むのでしょうか。

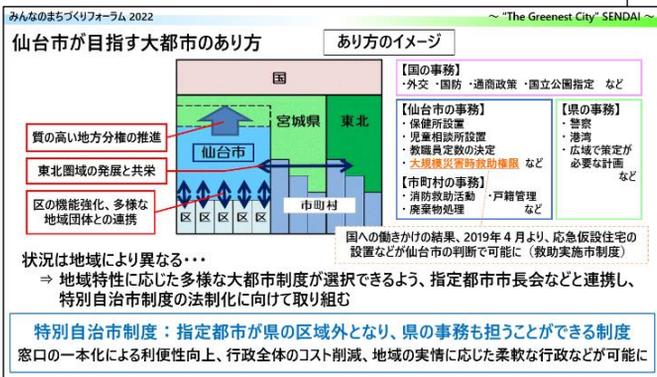
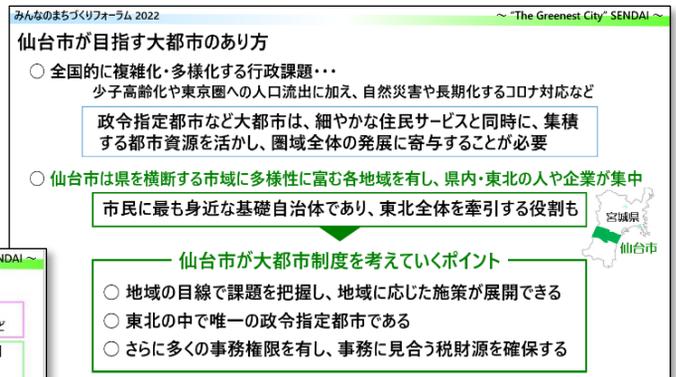
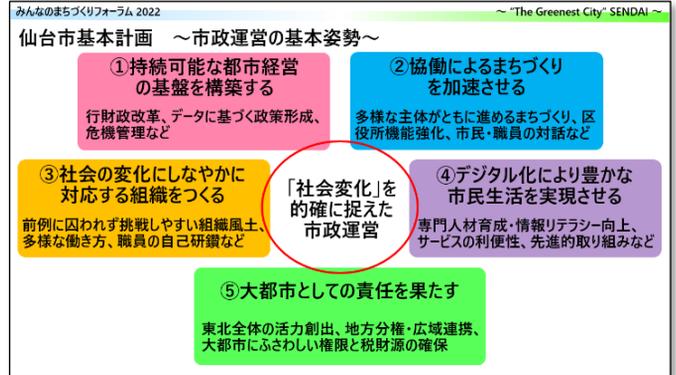
## 佐藤

まず、実現に向けた市政運営の基本姿勢として、図に示す5点を掲げ、「社会変化」を的確に捉えた市政運営に取り組んでいます。

①から④は皆さんイメージしやすいと思うのですが、⑤の「大都市としての責任を果たす」という部分を補足させていただきます。

仙台市は、市民に身近な基礎自治体として、また、東北唯一の政令指定都市として、市内各地域に応じた施策展開と同時に、東北全体の社会経済活動を牽引する役割を担います。

こうした大都市特有の役割を果たすには、市のことを市が決められる十分な事務権限と財源が必要となりますので、仙台市では各都市が多様な大都市制度を選択できるよう、全国の指定都市と連携し、特別自治市制度の実現を目指しています。

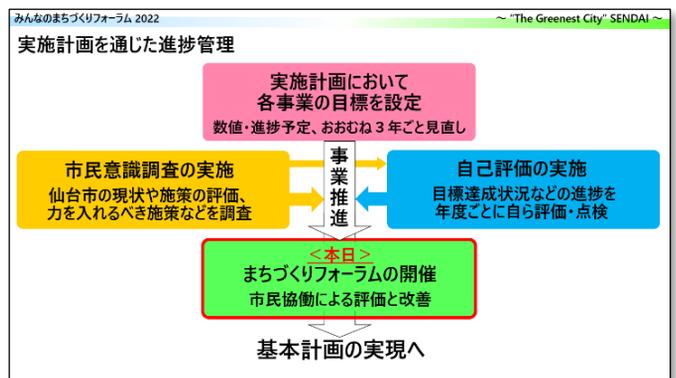


仙台に集積する都市機能を東北全体で、また市内の各地域で有効に活用できるよう、他の自治体との協力や区の機能強化、地域団体との連携を深めていきたいと考えています。

次に、基本計画の実現を目指す具体的な取り組みについてです。具体的なアクションは、仙台市実施計画を通して行われます。

実施計画の掲載事業は、数値や進捗などの目標を定めており、目標の達成状況について、市民意識調査や自己評価を基に評価・点検します。

さらに、各事業の課題解消や磨き上げを市民協働で行うこととしており、その機会が本日の「まちづくりフォーラム」でのグループワークになります。



## 市民意識調査結果について

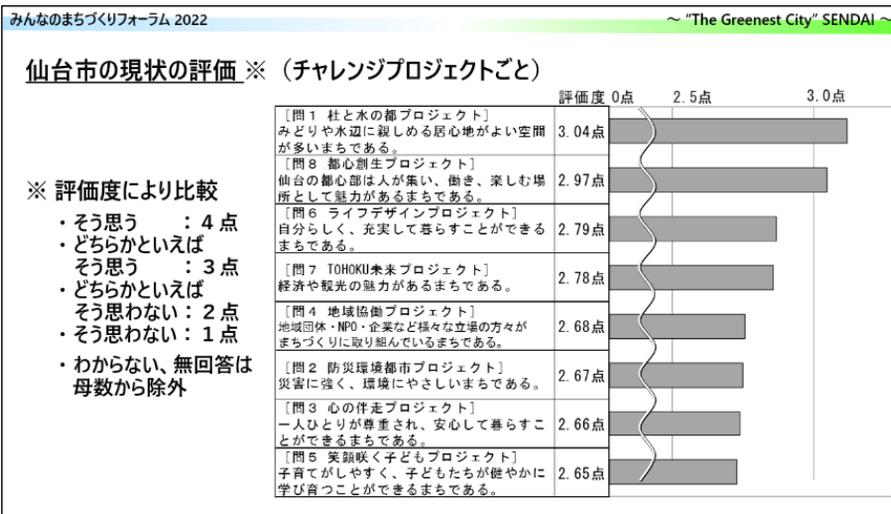
### 榊原

市民意識調査という言葉が出てきましたが、この後のワークの参考にするために、どんな結果だったのか教えてくださいいただけますか。

### 佐藤

仙台市の現状についての評価を、チャレンジプロジェクトに沿って伺いました。最も評価をいただいたのが、「杜と水の都プロジェクト」です。

反対に、最も評価をいただけなかったのが、「笑顔咲く子どもプロジェクト」です。事業担当課では、さまざまな取り組みを進めているものの、そうした取り組みや子育て情報の発信に課題があるのではないかと考えているようです。

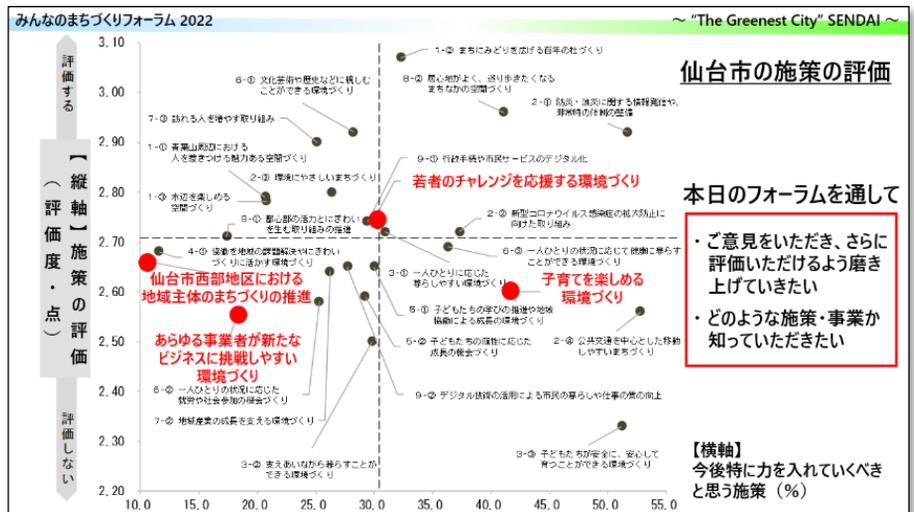


### 【市民意識調査】

- 2022年4月～5月、仙台市全域を対象として市内在住の満18歳以上の男女6,000人に行ったアンケート調査
- 郵送またはWEB回答、有効回収数3,101票 有効回収率51.9%

この表は、上に行くほど評価が高く、右に行くほど仙台市がさらに努力すべき施策になっています。

本日のテーマを含む施策は赤で示していますが、これらを上の方へと、評価をいただけるように磨き上げていきたいと思われ、事業の改善につなげるためにも、仙台市の施策・事業を深く知っていただきたいと考えています。



この後のグループワークでは、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## ファシリテータープロフィール

### テーマA担当ファシリテーター



### テーマA デジタルを地域の課題に活用する

#### 先端技術を活用した宮城地区の地域課題解決事業

□一般社団法人ONE TOHOKU HUB

いとう なりとき  
理事 **伊藤 愛発 さん**

大学院修了後、仙台市内の広告会社に入社、社内で地域振興支援に関する部署を立ち上げ、官公庁や自治体の事業を推進。「複業」であるONE TOHOKU HUBでも地域プロモーションや地域課題解決コンサルタント、観光事業などに携わる。特定非営利活動法人作並・新川地区活性化連絡協議会のアドバイザーを務める。

### テーマB担当ファシリテーター



### テーマB 若者が活躍できる環境づくり

#### 若者が活躍するまちづくり事業

□一般社団法人ONE TOHOKU HUB

てしま けい  
代表理事 **手島 慧 さん**

東日本大震災を機に「東北をもっと面白い地域に」との思いが芽生え、大手旅行会社に入社。仙台・東北のまちづくり・地域活性化に携わる。2022年4月、「若い力がハブとなり、ワクワクできる仙台・東北をつくること」を目指し、一般社団法人 ONE TOHOKU HUBを設立。仙台まちづくり若者ラボの推進支援にも取り組む。

### テーマC担当ファシリテーター



### テーマC 子育て情報を適切に届ける

#### 子育てに関する情報発信充実事業

□防災士／西公園プレーパークの会 理事

さとう みね  
**佐藤 美嶺 さん**

防災士として各地で子育て世代向けの防災講座等を行いながら、子どもの居場所づくりのため、屋外・公園での自由な遊び場である「西公園プレーパーク」を運営。仙台市地域防災リーダー（SBL）としても活動中。2023年4月より開催される「全国都市緑化仙台フェア」の開催に向け、基本計画検討会委員を務めた。

### テーマD担当ファシリテーター



### テーマD ビジネスに挑戦しやすい環境づくり

#### 起業支援事業

□特定非営利活動法人 都市デザインワークス

さかきばら すずむ  
代表理事 **榊原 進 さん**

仙台市総合計画審議会委員として「仙台市基本計画2021-2030」の策定に携わる。

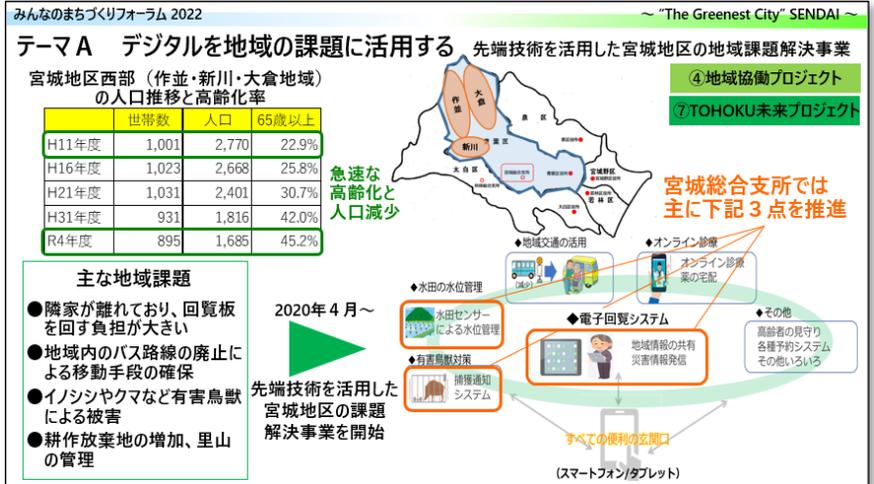
仙台を拠点に市民のまちづくりの支援を行うとともに、都心を流れる広瀬川一帯の魅力を高める「せんだいセントラルパーク」の提案と実践など、自らも積極的に、さまざまなまちづくり活動に取り組む。

## テーマA グループワーク

### デジタルを地域の課題に活用する ～先端技術を活用した宮城地区の地域課題解決事業～

仙台市西部の中山間地、作並・新川・大倉地区では、急激な高齢化と人口減少に起因する、さまざまな地域課題への対応が求められています。

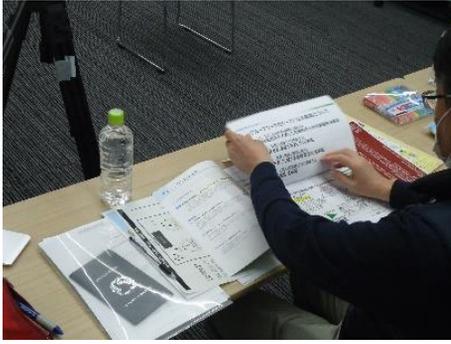
こうした課題について、先端技術や先進的なアイデアを生かして、地域・行政・民間企業の協働により解決を図ろうとする事業であり、ワークでは、2021年12月から試験導入した電子回覧システムについて、今後さらに利用していただけるように、利用登録者の増加につながる情報発信のあり方をグループで話し合いました。



## いただいたご意見やアイデア

- 生活インフラ、交通規制など、発信する情報の優先順位を明確にすべきではないか
- 高齢者へのデジタルの普及のために、カタカナの言葉をわかりやすい日本語でサポートする仕組みが必要
- デジタル社会への移行に向けては、市民が勉強していくことも重要だし、市もとり残される人がいないようサポートしていくべき
- 必要な情報が地域によって異なるため、どんな情報が必要か地域の側に問いかけてみてはどうか





- アクセス方法をとにかく簡単にすべきだし、情報の検索機能があると便利そう
- 地元の方も発信していくと面白いと思う。文字だと大変なので動画などを活用するか、コンテンツ作成にも音声入力をもっと活用したりするか
- チャット機能を使えば、地域の方同士のコミュニケーションにつながるのではないか

○この事業の前提として、地元の方や市民に、人口が減少していく中での市や社会の全体像を認識してもらうことが重要

○若い人の力を借りないと、デジタル推進につながらない。また、外国人の視点も必要

○アナログとデジタルを併用していくことを考えてはどうか。ただし、予算との兼ね合いも大事

○市民も行政も、既存のものばかりではなく、新しいことにも対応していくべき

○若い世代と高齢者を繋ぐ役割として、ポケベル・携帯・スマホ・PCに順応してきた40歳代が活躍できるのではないかと。また、若い世代のことももっと活用してほしい

○地元の方や高齢者に、デジタルはやってみると面白いと思ってもらえるといい

#### ファシリテーターから

電子回覧システムをテーマに議論しましたが、このシステムに限らず、さまざまなデジタル化が今後さらに深まっていく中で、市民の皆さんとしてもそういった時代に乗り遅れないような努力が必要だと思いますし、一方で行政側も、高齢者をはじめ、誰一人取り残されないような手厚いフォローが大事になると思いました。

ワークでは、システムや仕組みという話だけに留まらず、学生に期待するようなコメントがあったり、逆に学生からは、もっと自分たちの世代を使ってほしいというような意見があったりと、まちづくりのコミュニケーションの議論にまで発展しました。このまちづくりフォーラムならではの出来事だったのではないかなと感じました。



#### 担当課職員から

高齢化が進む宮城地区西部の電子回覧システムのご紹介、利用を拡大していくための方法について、幅広い年代の方々からご意見をいただきました。高齢の方でもスマホなどに慣れていけるような工夫が必要とのお話がある中で、大学生の方からいただいた、「学生たちが地域のみなさんと交流することに加えて、SNSなどを使いながらやりとりをすることが、地域のデジタル化へのきっかけになるのでは」とのお話がとても印象的でした。いただいたご意見を参考に、地域の方々が便利に、安心して生活できるような取り組みを進めてまいります。

## テーマB グループワーク

### 若者が活躍できる環境づくり ～若者が活躍するまちづくり事業～

若者の主体的なチャレンジを応援し、若い力をまちづくりに生かしていけるよう、若者と一緒にさまざまな取り組みを行う事業で、社会貢献活動を行う若者団体の表彰や企業とのマッチング、仙台まちづくり若者ラボなどの実践的な取り組みなどを進めています。

ワークでは、「若者をまちづくりへと後押しするには何が必要か」を考えていくためのヒントについて、ご意見やアイデアを伺いました。

みんなのまちづくりフォーラム 2022 ～「The Greenest City」SENDAI～

テーマB 若者が活躍できる環境づくり 若者が活躍するまちづくり事業 (4) 地域協働プロジェクト

- 若者の主体的なチャレンジを応援し、まちづくりや地域課題解決に活かすため、若者のアイデアを施策に取り入れる機会の創出などに取り組む

**仙台若者SDGsアワード**

- ・ コカ・コーラボトラーズジャパン株、一般社団法人ワカツク、仙台市にて実行委員会を組織
- ・ 「表彰部門」  
社会貢献活動を行っている若者団体を公募し、公開プレゼンで審査・表彰
- ・ 「協働部門」  
企業の参画を得て、当該企業との協働でSDGs達成に向けた取り組みを行う若者団体を募集し、マッチング




みんなのまちづくりフォーラム 2022 ～「The Greenest City」SENDAI～

テーマB 若者が活躍できる環境づくり 若者が活躍するまちづくり事業

**仙台まちづくり若者ラボ**

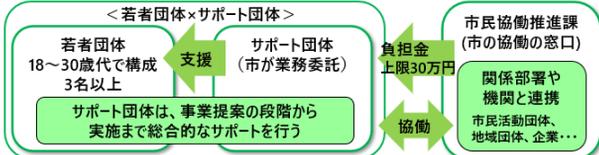
- ・ 市内に居住または通勤・通学する18歳から概ね30歳の方を公募、ワークショップ・フィールドワーク・最終報告会を開催し、「自分ごと」としてのまちへの関わり方を探索
- ・ 同世代の社会人がメンター（相談・助言者）としてサポートするほか、フィールドワークでは、参加者は「まちの特派員」となり、さまざまな人や取り組みを取材・発見
- ・ 市がアイデアを地域課題の解決や活性化に活用するとともに、参加者自身の成長にも

みんなのまちづくりフォーラム 2022 ～「The Greenest City」SENDAI～

テーマB 若者が活躍できる環境づくり 若者が活躍するまちづくり事業

**ユースチャレンジ！コラボプロジェクト**

- ・ 若者にとって身近なまちづくりに関する事業提案を募集し、市と協働で取り組むことで、若者のアイデアを市の施策に取り入れ、発想を活かしたまちづくりを推進



＜若者団体×サポート団体＞

若者団体 18～30歳代で構成 3名以上

サポート団体 (市が業務委託)

支援

負担金 上限30万円

協働

市民協働推進課 (市の協働の窓口)

関係部署や機関と連携  
市民活動団体、地域団体、企業…

サポート団体は、事業提案の段階から実施まで総合的なサポートを行う

例えば・・・荒井東地区の過去に会い、未来につなげる、まち歩きマップ活用事業

- ・ まち歩きマップの作成
- ・ 荒井東LINEアカウントの立ち上げ
- ・ まち歩きマップ × 荒井東LINEアカウントの連携
- ・ 地域イベント × まち歩きマップ × 荒井東LINEアカウントとの連携




## いただいたご意見やアイデア

- まちづくりへの参加というと、イベントに足を運ぶなどの関わり方が多いが、スマホを使って参加できるようにすべきではないか
- 若者はテクノロジーを使いこなせる世代なので、デジタルダッシュボードなど、スマホを使った個人の意見を表明する場を設ける
- 道路や公園といった公共空間でまちづくりに関するイベントを実施すれば、参加申込がいらぬし、たまたま通りがかった人や関心の薄い人も呼び込むことができるのではないか
- まちづくりに参加した証など、目に見えるメリットがあればよい





- まちづくりへの参加を、高校の探求型学習や大学のゼミの活動の一環として組み込むのも手段のひとつ。まちづくりが成績、単位、自らの学びにもなるシステムづくりが必要
- 信頼できる友達から勧められると参加してみようかなと思う
- クラス、ゼミ、研究室など、小さなコミュニティの中で情報を伝えることが必要になっている。また、信頼できるインフルエンサーが情報を伝えることが重要になる

- 公式LINEで意見を募集してはどうか。イベントもスマホひとつで申し込めるようにするなど、個人参加のハードルを下げる仕組みが必要
- SNSでアイデアを集め、他の人のアイデアを見ながらコミュニケーションを図るイベントがあればいい
- 高校生だと土日は部活や学業で活動に参加できないことが多く、夜に参加できたり、気軽に意見を出せたりする仕組みが欲しい
- 地元出身のユーチューバー、インフルエンサーを活用して意見、参加を促してはどうか
- 市民に仙台ツアー的に街歩きを楽しんでもらい、その気づきを自分事化してまちづくりに誘引するイベントを開催すると面白いのではないか

#### ファシリテーターから

ワークを通じて、まちづくりの入口にあるハードルを下げるのが重要だという考えを深めました。

まちづくりに関心があっても、なかなか一歩踏み出せない人たちにとっては、学業や部活、仕事などで忙しい中、それでも「まちづくりに参加してみよう」、「イベント会場に行ってみよう」という気持ちになるために、わかやすいメリットが必要なのではないでしょうか。

メリットの例には、学校の単位や記念品など、さまざまなものがありますが、参加した先にある「まちづくりの面白さ」を経験してもらうためにも、参加すれば何ができる、こんな学び・発見につながるなど、メリットの中身をきちんと説明していくことが大切なのだと感じました。



#### 担当課職員から

オンライン参加された方も含め、多くの高校生や大学生、社会人の方に参加いただき、まちづくり活動に一歩踏み出せない人をどうやって後押しするか意見を交わしました。

まちづくり活動に参加することで得られる「達成感・メリットをつくること」やICTを活用した「現地参加以外でのイベントへの関わり方」、「情報発信・告知の方法」について、皆さまの等身大の率直な思いを伺うことができ、大変貴重な機会になったと感じています。

今回いただいたご意見等も参考にさせていただきながら、今後も若者活躍の取り組みを進めてまいります。

## テーマC グループワーク

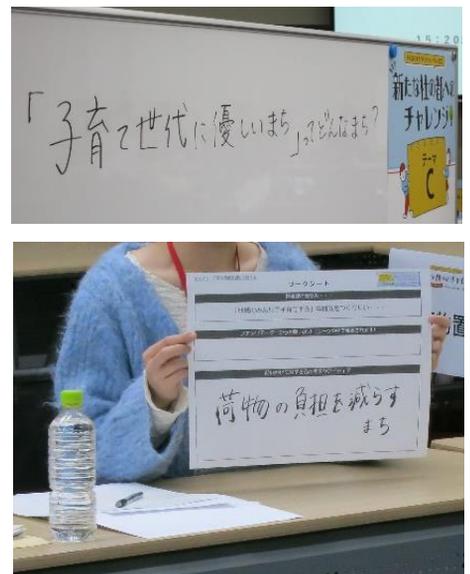
### 子育て情報を適切に届ける ～子育てに関する情報発信充実事業～

市民の皆さまとともに子育てを応援する社会をつくることを目的に、子育て情報を必要とする方に、その方にとって必要な情報が届くよう、ポータルサイトやアプリで、行政サービスや子育て応援の取り組みを発信しています。

ワークでは、このような取り組みを「地域社会全体で子育てする」環境づくりにつなげるためには何が必要か、また、「子育て世代に優しいまち」とはどんなまちなのかを、皆さんで話し合いました。

## いただいたご意見やアイデア

- 高齢者、若者など、子育て世代ではない人が子育てに関わるまちが理想、児童館などでさまざまな世代や地域の人に参加できるイベントを開催したり、交流する機会をつくり、発信することが重要
- 子育て世代が安く気軽に外出できるように公共交通機関を充実させるとか、ミルクやおむつを自動販売機で購入できるとか、子育て世代の外出の負担が少ないまちになるとよい
- 共働きの世帯も多いと思うので、保育園に限らず、放課後の預かりができる施設を充実させる必要がある





- 大規模イベント（都市緑化フェアなど）で子どもと若者が触れ合う場、施設があるとよい
- 子育て世代と他の世代が交流するイベント、ただし、子育てを丁寧にサポートしてあげるというスタンスではなく、さまざまな世代が楽しみながら参加できるイベントを開催してはどうか
- 実際に子育てした人から若者向けに、実体験を伝える機会があれば、将来の子育て世代になる若者の関心が高まると思う

- のびすくナビの充実には、グルメサイトのように、利用している方にのびすくサポーターの施設のレビューをアップしてもらおう（仮称：のびすくレポーター）とよいのではないかと
- まだ子育てをしていない方が情報を得られるように、また、地域で子育てを応援する雰囲気ができるように、一般企業の掲示版にのびすくナビのQRコードや子育て情報を掲出してはどうか
- 子育てが始まってから何をするか、ではなく、現在子育てをしていない人がどのように関わっていくかが大切
- 行政と大学がコラボして、大学のHP等で子育て支援のボランティア情報を伝えていくとよい
- 子育て世代をサポートしたい学生も多くいる。支援が必要な人との出会いが少ないので、マッチングできる仕組みができるとよい

#### ファシリテーターから

テーマが「子育て情報を届ける」だったのですが、グループにはお子さんがいらっしゃる方は一人もいないということで、正直、どうい議論になるのだろう・・・と思い、最初はどきどきしていました。

ワークの中で、学生の皆さんに「自分たちの世代も子育てをしている世代と関わりたいと思っている」と言っていたことがすごく嬉しくて、そのために何ができるのか、という部分をたくさん話し合い、皆さんのさまざまな意見を聞いて純粋に楽しかったです。

また、子育て中の方が歩いているところを見て、にこっと笑顔になれるような、仙台がそんなまちになるといいなって言ってくださったのがとても印象的でした。



#### 担当課職員から

参加者は全員子育て経験のない20代の方々でしたが、中には「仙台で子育てしたいと思っている」とお話しくださる方もおり、自分事と捉えた積極的な発言を数多くいただきました。

子育てに関する情報発信については、本市のスマートフォン向けアプリケーションをより多くの方に利用いただくためのアイデアや情報発信にとどまらないSNSの活用など、幅広いご提案を頂戴したところです。

いただいたご意見を参考にしながら、子育てのよろこびを実感できるまちを目指し、今後とも子どもと子育て家庭のための取り組みを進めてまいります。

## テーマD グループワーク

### ビジネスに挑戦しやすい環境づくり ～起業支援事業～

よりよい社会の実現を目指す多彩な起業家が自律的、連続的に生み出される「エコシステム」が構築されるように、東北全域を対象に、起業支援プログラムの提供や起業のすそ野の拡大、事業継続率の向上などに取り組んでいます。

ワークでは、ビジネスに挑戦しやすい環境づくりに向け、まず、手厚い起業支援があることを知っていただくためにどんなことができるか、皆さんで話し合いました。

みんなのまちづくりフォーラム 2022

～「The Greenest City」SENDAI～

テーマD ビジネスに挑戦しやすい環境づくり 起業支援事業

7 TOHOKU未来プロジェクト  
8 都心創生プロジェクト

○よりよい社会の実現を目指す多彩な起業家が自律的、連続的に生み出されるように、東北全域を対象とした2種類の集中起業支援プログラムの提供、起業のすそ野の拡大や事業継続率の向上などに取り組む

東北ソーシャル・インパクトアクセラレーター (SIA)



東北から着火する、社会変革の炎  
SOCIAL IGNITION

「社会課題の解決」を第一義に展開し  
経済的持続性と社会インパクトを備えた  
スタートアップを支援

2種類の  
集中支援  
プログラム

2017年からの  
5年間で  
141者の  
起業家を支援

東北グロースアクセラレーター (TGA)



TOHOKU GROWTH ACCELERATOR

社会性と事業性を両立しつつ  
特に「急成長・急拡大を志向」し  
地域を超えたより広い市場を目指す  
スタートアップを支援

みんなのまちづくりフォーラム 2022

～「The Greenest City」SENDAI～

テーマD ビジネスに挑戦しやすい環境づくり 起業支援事業

**アシスタ**  
Sendai Startup Support Center

事業の構想段階から起業後のフォローまで、起業家のステージに合わせてさまざまな支援メニューをワンストップで提供する施設



起業相談 (窓口・オンライン)



起業セミナー (ハイブリッド)



コワーキングスペース  
(アシスタ交流サロン)



雇用労働相談センター



開業ワンストップセンター

起業件数  
(2014～2021)

**830+**

2021.6 OPEN

みんなのまちづくりフォーラム 2022

～「The Greenest City」SENDAI～

テーマD ビジネスに挑戦しやすい環境づくり 起業支援事業

起業啓発・促進イベント SENDAI for Startups!



東北中の起業家が集まり、深化し、つながる場

2013年に80名でスタートし、3,000名以上が参加する地方最大級の起業イベントに成長

### いただいたご意見やアイデア

- 起業というと重くて、ハードルが高いイメージがあるので、まずはそれを払拭することが大切
- 起業家を増やすために、若い世代や市民が起業家と出会う機会を設けてはどうか
- 働くうえで選択肢のひとつに起業家が入りにくいので、選択肢に入れてもらえるようにすることが重要
- 学校の授業で起業家を育成するカリキュラムを設けたりすれば、起業の増加につながるのではないかと





- 社会で起業家が認知、評価される土壌づくりが必要になる
- 職業欄に起業家欄をついたり、市が起業認定を与え、もし失敗しても再就職しやすしたりすると起業にチャレンジする人が増えるかもしれない
- 背景に社会課題解決があり、その解決に向け志を持って起業する方が多いと聞き、社会課題があるからニーズがあり、そのニーズにビジネスチャンスが生まれるのだと納得した

○ニーズを持っている市民と市が共創することが重要。一緒にディスカッションしてさまざまな問題から生まれた起業を支援し、失敗を恐れず、仮に失敗したとしても起業したことを褒め、その後を支える社会にしていくことが必要だと感じた

○起業支援の手厚さを知ってもらうためキャッチフレーズ

- ・「起業は日常の中から、相談はアシスタへ」（⇒ 気軽に相談に来て！）
- ・「愚痴聞きます」（⇒ 不便なところが起業の種になる。アシスタに行ってみよう！）
- ・「ワンストップで手厚い支援します」（⇒ ワンストップで支援して欲しい・・・）
- ・「サークルを創る感覚で起業ってできるかも」（⇒ 同じ意思を持った仲間が集まれば・・・）

#### ファシリテーターから

ワークの冒頭、起業したいと思っている人を聞いたらシーンとなってしまいました。起業は遠いものなのかなと思いつつも、これから変化の激しい時代になってくるという意味では、選択肢の一つになるのではないかなと考えています。ワークの最後に関心を持てた人はいますかと改めて聞いてみましたが、お一人手を挙げていただいたので、とても嬉しかったです。市が起業支援をして、起業が盛んになり、自慢したくなるようなまちになってくると、市民としても起業に当事者意識が出るのではないかと思います。

こういったまちづくりフォーラムのような場で、起業に関する議論が引き続き実施され、市民のアクションにつながっていくことを期待します。



#### 担当課職員から

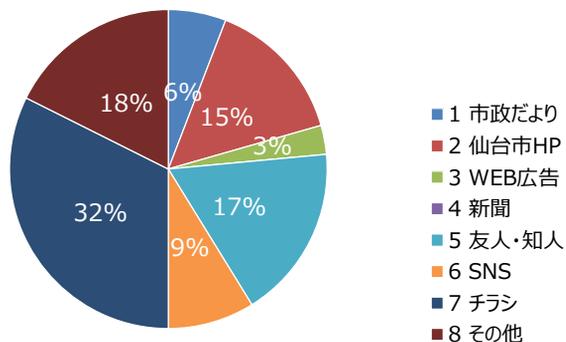
大学生から年配の方までさまざま方にご参加いただき、議論をいただきました。はじめは起業についてリスクを心配する声が多くありましたが、身近な起業の例を説明し、自分が起業するとしたら・・・と考えていただくことで、議論が活発になっていったように思います。

仙台市の施策や起業状況の説明の中で、まだまだ知られていない部分が多いと感じました。起業という分野においても、市民の皆さまの認知が高まることで、周囲の理解が得られやすくなり、起業者を後押しする力につながります。

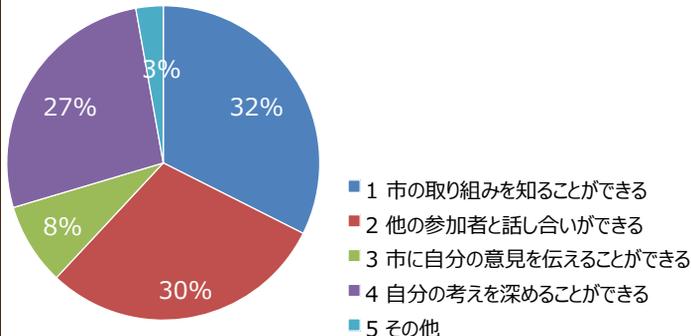
今後、広報にも力を入れ、市全体で起業の機運を醸成していければと思います。

# アンケート集計

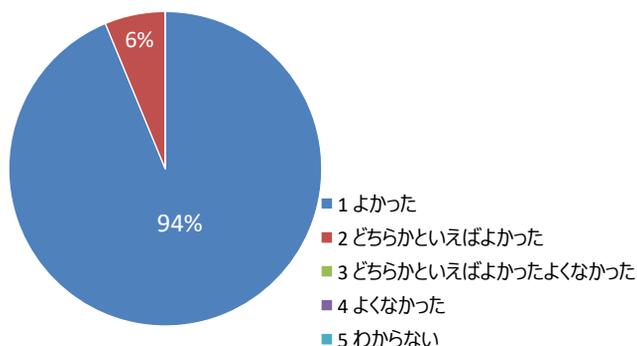
Q1) このイベントをどこでお知りになりましたか（複数回答可）



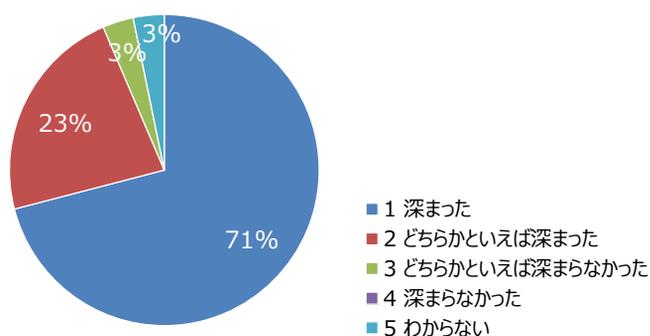
Q2) このイベントのどこに興味があり参加されましたか（複数回答可）



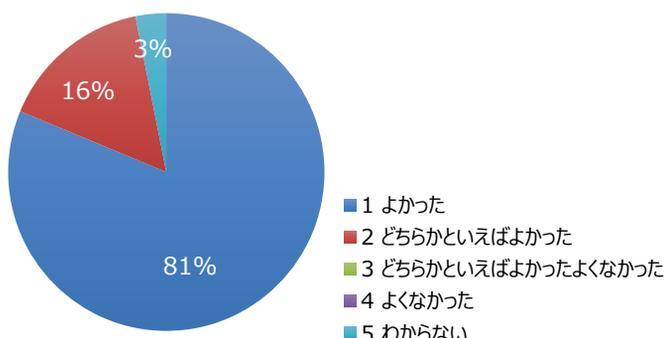
Q3-1) このイベントに参加した感想はいかがですか



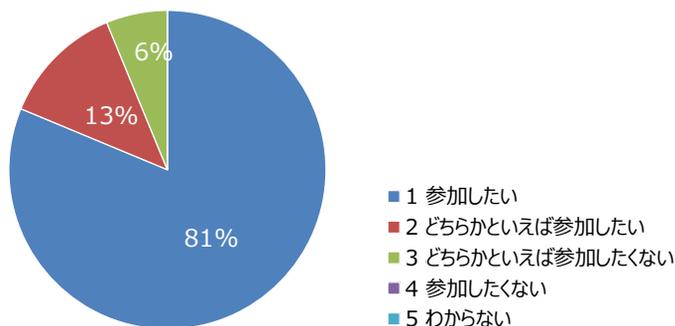
Q3-2) 仙台市の取り組みへの理解は深まりましたか



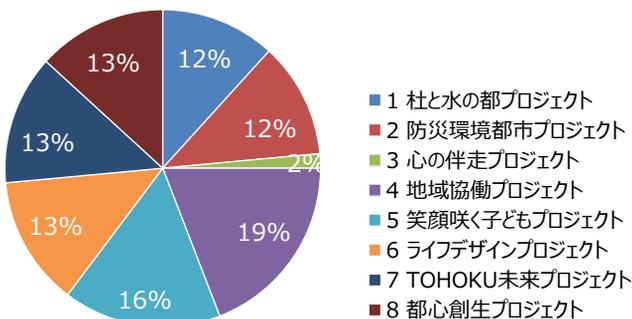
Q3-3) グループワークの議論はいかがでしたか



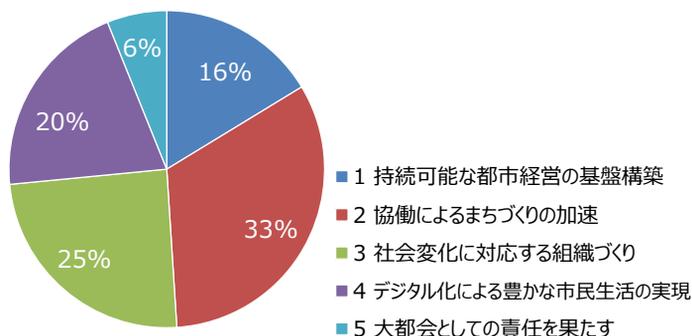
Q3-4) 今後同ようなイベントがあったら参加してみたいですか



Q4-1) 仙台市は今後そのような分野に力を入れるべきだと思いますか（チャレンジプロジェクト）（複数回答可）



Q4-2) 仙台市は今後そのような分野に力を入れるべきだと思いますか（市政運営）（複数回答可）



## 参加者の感想

「まちづくり」には多様な関わり方があることを知ることができ、私自身もまちづくりに参加することに大きな意義があると感じました。特に「協働によるまちづくり」のために、私やさまざまな主体が関わり合い、対話をするのが非常に重要であると感じました。

今回のフォーラムだけでなく、今後も仙台市のまちづくりに関わっていきたくて考えています。

今回初めて市のイベントに参加しましたが、さまざまな人の意見を聞くことができ、とても良い経験になりました。

また、仙台市も悩んだり、困ったりしていることを知れた。自分でも何ができるのかなどを考えながら生活して、意見を発信していければと思った。

市の取り組みを知った上で、自分の考えを深めつつ、多様な視点からの意見を聞くことができたので面白かったです。

話しやすい雰囲気、参加できてよかったと思います。また機会がありましたら参加したいです。

子育てをしていくことに、金銭的負担が大きいイメージがあったが、実際には、金銭面以外にも情報発信や情報の受け取り部分での苦勞も多いことが分かり、新たな視点で参加者の意見を聞くことができた。

いろいろな方の意見が伺えてとても面白かったです。

デジタル活用は今後必要だと思いますが、テーマが大きいのでもっと議論する時間があるとさらに面白いと思います。

話し合いの時間が1時間弱で短かったので、一次、二次に分けることでさらなる意見交換につながるのでは…。

仙台市の取り組みや現在抱えている課題について知ることができました。グループワークでは、異なる考えや視点の方と意見交換ができ、有意義な時間になりました。

デジタルの利活用に関するテーマで、参加された市民の皆さんと本音トークが出来て大変良かった。特に、大学生の力を借りて、デジタル社会に向けて少しずつ変革していくことが非常に重要と感じた。

今後もこのようなイベントを開催して欲しいし、全てオンラインでもよいので、回数を増やしてほしいと思った。

イベントを通して皆さんの意見を聞くことができ、良い学びの場になったと思いました。

私は将来宮城県で生活して、子どもを産んで育てたいと思っているので、今回、市で行っている子育て支援について学ぶことができて良かったです。

当初、仙台市の取り組みを手っ取り早く把握したいと考え参加しましたが、議論すること自体が非常におもしろく、自分の考えの浅さにも気づきました。

今後このような機会を増やし、まちづくりに興味を持つ人を増やすことが、将来的に仙台の活性化につながると思うので、ぜひ今後も続けていただきたいです。

おもしろかった。市民協働から市民共創へ。

オンラインで参加させていただきましたが、映像や音声などの不備もなく気持ちよく参加することが出来ました。

今回初めての参加でしたが私自身まだまだ仙台について知らないことだらけだなと感じ、もっと仙台について知りたい！と思いました。

他の参加者の方との議論の中で、ネットや自分に関わりがない環境についての情報や実態を知ることができ、勉強になることが沢山ありましたし、非常に楽しかったです。

次回もぜひ、参加したいと思いました。

去年に引き続き、今年も参加させていただきました。

今年は自分と同じ若い世代の方が多く参加していたため、グループ内での意見交換なども活発に行えた気がします。